ワークシート

声部の役割を感じよう

２年＿＿組＿＿番　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

パイプオルガンの構造についてまとめましょう。

オルガンの語源はギリシア語の道具という意味を持つオルガノンに由来する。
オルガンの基本は大小さまざまなパイプに送風装置と鍵盤を付けたもの。
パイプオルガンは、ピアノやチェンバロと同じ鍵盤楽器であるが、音の出る仕組みはリコーダーなどの管楽器と同じで、送風機によってパイプに〔　　〕を送ることで音が鳴るようになっている。
パイプにはリコーダーのような音が出る〔　　〕と柔らかい金属を使って特徴のある音を出す〔　　〕の２種類がある。
音の高さや音色の操作は、演奏台にある〔　　〕や〔　　〕、左右にある〔　　〕というボタンのようなもので行う。

ちなみに…『札幌コンサートホール Kitara(１９９７～)』のパイプオルガンは、全部が手造り、約２年もかけて造られ、組み立てにはほぼ４か月かかった。一番長いパイプで７メートルもあり、短いものでは、１センチほどの長さである。パイプは表面に見えるものだけではなく、内側にもあり、合計で〔　　〕本もある。

鍵盤は５段、ストップの数は６８種類。演奏者は壁に向かうことになるため、背後の指揮者やコンサートマスターを見られるよう、譜面台の上部にモニターが備えられている。

①「フーガ　ト短調」の曲の仕組みを、まとめよう。

フ ー ガ…はじめに示された（　　）が、追いかけるように次々と加わる他の声部によって繰り返され、（　　）的に発展していく形式。追いかける旋律は（　　）と言い、違う調（　　調）で演奏されることで豊かに絡み合う。
多声音楽…複数の声部がそれぞれ旋律を奏で、それらが絡み合うように進行する音楽
フーガ、カノンなどは多声音楽の一つの種類

②教科書を見て、作曲家バッハについてまとめよう。

音楽史の時代	バロック時代	**年生まれ～　　年　没**	
生まれた国		**活躍した国・地域**	
経歴や主な作品			

③その他のオルガンの作品も鑑賞し、それぞれの声部が絡み合う多声音楽の仕組みや、オルガンの豊かな音色について自分がどのように感じ取ったのかをまとめよう。